2026年度　佐賀県公立高校入試徹底分析【英語】

【形式・難易度】

(1)全体概況・難易度の変化

試験時間	50分		配点	50点
問題構成	大問1	10点	リスニング	解く目安時間　10分
	大問2	10点	英作文	解く目安時間　8分
	大問3	10点	読解(小問集合)	解く目安時間　7分
	大問4	10点	対話文	解く目安時間　12分
	大問5	10点	長文	解く目安時間　13分

試験時間は例年通り50分、配点は50点満点(各大問10点×5)です。 令和8年度(2026年度)の英語の県全体平均点は**30.9点**となり、過去2年間(令和7年度:27.0点、令和6年度:27.9点)と比較して大きく上昇(易化)しました。全体的なページ数は12ページ分で、昨年度(令和7年度)と同様です。長文や対話文の難易度が安定し、受験生にとって取り組みやすい構成となりました。

(2)大問別正答率の比較(過去3年)

以下の表は、過去3年間の各大問の平均得点率(正答率)を比較したものです。

大問	形式	令和8年度(2026)	令和7年度(2025)	令和6年度(2024)	傾向
1	リスニング	81%	84%	74%	高い水準で安定
2	英作文	41%	30%	36%	形式変更があったが易化
3	小問集合	72%	65%	67%	易化
4	対話文	62%	57%	52%	年々易化・正答率上昇
5	長文	53%	36%	50%	R7の難化から標準レベルへ

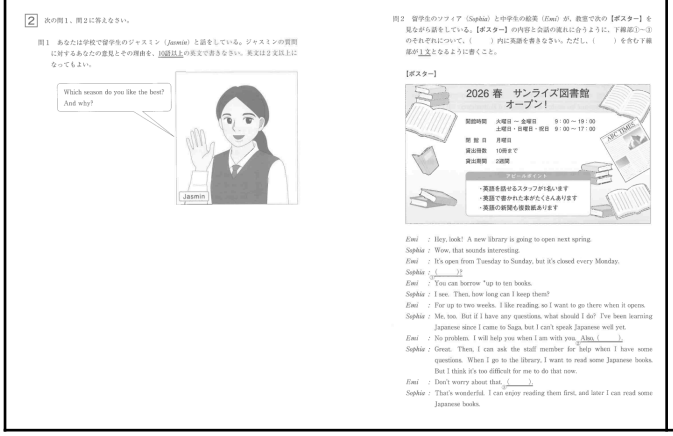
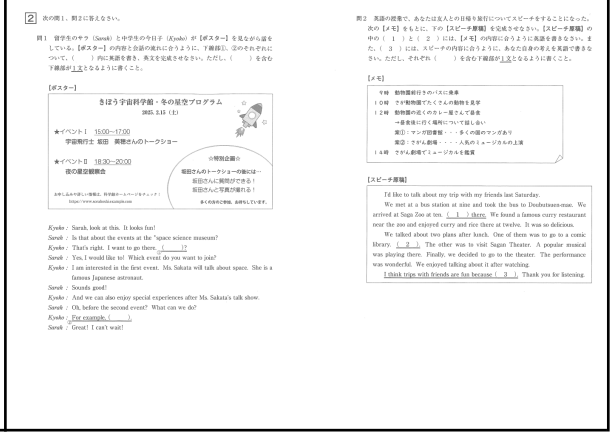
【出題の傾向と対策】

大問1　リスニング問題

- 特徴:例年通り、絵や表を見て答える問題、短い会話、アナウンスやスピーチの内容把握から構成されています。配点も10点分で変更はありません。正答率は81%と高く、確実に得点源にすべき大問です。
- 対策と勉強法:音声は2回ずつ読まれるため、1回目で「誰が(Who)・何を(What)・いつ(When)・どこで(Where)」などの**5W1Hに注意して聞き取り**、2回目の放送で確認する習慣をつけましょう。放送が始まる前に、選択肢の英文やイラストに必ず目を通しておくことが重要です。日頃から教科書の音読や、模試の音声を少し速いスピード(**1.2～1.5倍速**)で聞くトレーニングが効果的です。

大問2　英作文

- 特徴と変更点:令和8年度で最も目立つ変更があった大問です。問1で「あなたの好きな季節とその理由」について**10語以上で書かせる『自由英作文(テーマ型)』が独立して出題されました。**問2は従来の問1通り、ポスターを見て対話文を完成させる形式ですが、この新傾向の自由英作文により、受験生の純粋な表現力が問われています。形式は変わったものの、大問全体の正答率は41%と、前年の30%から上昇しました。

令和8年度（問1が変更）		令和7年度
	⇐	

- 対策と勉強法：新出のテーマ型自由英作文に対応するため、「I like ~ the best because...（私は～が一番好きです、なぜなら…）」といった基本的な文章の「型」を複数暗記することが必須です。難しい単語を使う必要はないので、自分が確実にスペルミスなく書ける中学校レベルの文法・語彙を活用して自分の意見を書く練習を重ねましょう。また、問2に対しては、チラシやポスターの情報を素早く英語に変換する練習（時間、場所、条件など）が必要です。

大問3　小問集合

- 特徴と変更点：買い物の会話やグラフの読み取りがテーマでした。令和7年度に見られたスマートフォンのメッセージ形式から、対話文の中での空欄補充やグラフ選択に戻っています。また、令和6年度に追加された「文章中の事実と考えを区別させる問題」は今年も継続して出題されています。
- 対策と勉強法：タイトル選択やグラフ・資料と一致する選択肢を選ぶ問題が頻出です。長文をすべて丁寧に訳すのではなく、設問で何が問われているかを先に確認し、必要な情報を正確に素早く読み取る練習を心がけましょう。また「事実（実際に起きたこと・データ）」と「考え（筆者や登場人物の意見・推測）」を明確に読み分ける練習をしておくことが大切です。

大問4　対話文

- 特徴と変更点：自転車通勤・通学に関する対話文とプレゼンテーションの資料がテーマでした。文章量はやや多めですが、令和6年度から年々正答率が上昇しており（52%→57%→62%）、難易度は易化傾向にあります。中学3年生の標準的な文法知識で十分に読み解けるレベルです。
- 対策と勉強法：SDGsや社会課題、身近な生活問題などがテーマに選ばれやすい傾向があります。単語力や文法力の基礎を固めた上で、対話の流れ（誰がどのような立場で発言しているか）を見失わないように読む練習をしましょう。

大問5　長文読解

- 特徴と変更点：中学生がサッカーを通じた経験を語るスピーチ文です。文章量（行数）は約25行強で、令和6年度（28行）や令和7年度と比べても同等かわずかに少なくなっています。令和7年度では36%まで落ち込んだ正答率が、今年度は53%まで回復し、極端な難問はなくなりました。また、令和5年度から導入された「抜き出した1文が入る適切な空欄を選ぶ問題」は今年も出題されましたが、令和7年度にあった「出来事の並び替え問題」は出題されず、適語補充選択問題に変わりました。
- 対策と勉強法：文挿入問題に対応するために、話の流れだけでなく、代名詞（it, they, themなど）や接続詞（But, And, Becauseなど）が「前のどの文を指しているか」という前後の文脈・論理展開を正確に把握する読解力が求められます。30行弱の長文を最後まで読み切るために、日頃から時間を計って長文を読むようにしましょう。